

令和 7 年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課	要素事業所管課	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課・建設緑政局グリーンコミュニティ推進室・建設緑政局富士見等々力再編整備室
----------	----------------------	---------	---

1 計画の概要

計画の名称	全国都市緑化フェア開催に関連する都市公園の整備	計画の期間	令和 4 年度～ 令和 6 年度
計画の目標	富士見公園は、昭和 11 年に都市計画決定され、周辺には様々な市民利用施設が集積しており、富士見公園を中心とした周辺一帯が市民の憩いの場やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点となっている。また、夢見ヶ崎公園は、昭和 47 年に動物展示を開始し、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる市内唯一の動物公園として、市民や地域から愛され続けている。 令和 6 年度に本市で開催予定の全国都市緑化フェアの開催に向け、両公園の整備を進め、コミュニティ形成の拠点や防災、脱炭素化施策の推進など、行政課題の解決に向け、みどりが持つ多機能性を活用したまちづくりを推進し、フェア終了後においても、まちの拠点となるような公園づくりを目指す。		
計画の成果目標(定量的指標)	全国都市緑化かわさきフェアの認知度 5% (令和 3 年 11 月) → 15% (令和 6 年度)		
計画変更を行った場合、変更内容の概要			

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況(概要)

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	都市公園事業(富士見公園) 都市公園事業(夢見ヶ崎公園)	5,454,000	5,454,000	4,850,760	82%	完了
B (関連社会資本整備事業)	〇〇〇〇事業					
C (効果促進事業)	効果促進事業(富士見公園)	625,000	625,000	701,540	112%	完了
全体事業費(A+B+C)		6,079,000	6,079,000	5,552,300 【財源内訳】 国: 2,776,150 県: 0 市: 2,776,150		

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	全国都市緑化かわさきフェアの認知度 5% (令和 3 年 11 月) → 15% (令和 6 年度)			
定義及び算定式	全国都市緑化かわさきフェアを知っている人/市民アンケートの回答者			
その指標を設定した理由	全国都市緑化かわさきフェアを契機に再編整備後の公園に来場していただき、みどりの効果を体感してもらうことで、かわさきフェア終了後の継続的な活用につながると考えているが、まずはフェアの開催を知ってもらう必要があるため。			
当初現況値(R3)	中間目標値	最終目標値(R6)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
5%		15%	52.9%	達成
目標達成状況に対する所見	富士見公園、夢見ヶ崎公園の両公園の整備により、コミュニティ形成機能や防災機能が充実したことで、公園が持つまちの拠点としての機能をより発揮することが可能になった。また、かわさきフェアでは、市民を中心に、多くの来場者があり、様々な年代の方々が両公園に実際に足を運んだことで、暮らしの中にみどりを取り入れるきっかけとなり、みどりには様々な機能があることを知っていただくことができた。			
将来の見込み				

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	①「全国都市緑化かわさきフェア」の来場者数 ②全国都市緑化かわさきフェア市民アンケート調査
定義及び算定式	①全国都市緑化かわさきフェア及び夢見ヶ崎公園の来場者数 ②市民のみどりへの関心の程度
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	事業効果の発現に向けて、まずは公園ことを知ってもらい、次に整備後の公園に実際に足を運んでもらうことが必要で、さらには、来園時にみどりの持つ多様な機能を実感してもらうことが、継続した利用を生み、人が集まり、まちの拠点となる公園づくりにつながることから、来場者数やアンケート結果で事業効果の発現状況を確認した。
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	① ・かわさきフェアの来場者数（富士見公園）⇒ 約 71.5 万人 ・夢見ヶ崎公園の来園者数 ⇒ 約 5.5 万人 ②整備後に多くの来場者が訪れ、みどりの持つ多様な効果を実感していただけた。また、みどりへの関心が4割を超え、身近に感じるみどりとして、「公園」が一番多かったことから、魅力的な公園づくりを行うことが、継続的な利用を生み、まちの拠点となることを促すと考えられる。

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	全国都市緑化かわさきフェア市民アンケート調査 【調査手法】ウェブでのアンケート調査（モニター調査） 【調査期間】令和7年7月25日（金）及び7月26日（土） 【有効回答】 2,163 件（各区 309 名×7区）
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	かわさきフェア開催後に実施したアンケートでも花や緑そのものが持つ魅力や、リラックス効果、活動したり育てたりする喜び、防災機能のために大事な場所だと感じたとの回答があり、みどりの持つ効果や機能を現場で実感してもらうことができた。また、身近に感じるみどりとして6割以上の方が「公園」と回答していることや、かわさきフェア終了後も子育て支援や居場所づくりの場として活用されるなど、地域コミュニティの拠点として機能しています。

6 今後の方針等

総合的な所見	富士見公園、夢見ヶ崎公園の整備により、コミュニティ形成や防災機能が充実したことで、みどりが持つ多機能性をより発揮することが可能になった。また、かわさきフェアを通じて、多くの方に来園いただき、効果や機能を実感してもらえたことで、かわさきフェア終了後もまちの人々にとって馴染みのある場所となり、まちの拠点として機能することができている。
今後の方針 <div>次期計画 あり・なし</div>	